

[成果情報名] 薬用シャクヤクを導入した場合の植木類との複合生産体系モデル

[要約] 薬用シャクヤクの根（生薬原料）を導入した場合、苗及び切り花を販売することにより収益性を高めることが可能で、年間労働時間は 773 時間となり、5 月と 11 月が繁忙期となる。

[キーワード] 薬用シャクヤク 複合経営モデル、植木生産、シャクヤク切り花

[担当] 三重県農業研究所 茶業・花植木研究室 花植木研究課

[分類] 普及

[背景・ねらい]

生薬原料として需要の大きいシャクヤクは中山間地域の活性化を図る新規作物として期待されている。しかし、導入に当たり栽培に 4 年かかるため、収益性が低いことが指摘されている。

そこでシャクヤクを導入し、生薬原料の根だけでなく、苗や切り花を販売し収益性を高めている三重県の植木生産者の実例をもとに、複合生産体系モデルを構築する。

[成果の内容・特徴]

1. 鈴鹿地域の導入実例をもとに、植木類（70a）と薬用シャクヤク 40a（1～4 年目各 10a）を栽培した場合の導入 4 年目以降の月別労働時間及び経営収支を作成した。（表 1、図 1）
2. シャクヤクの根（生薬原料）及び苗をメーカーに販売すると、前者の販売額は 750,000 円（単価 300 円、収量 2500Kg）、後者は 120,000 円（120 円、1000 株）、さらに切り花の直売で 200,000 円（1 単価 100 円、2,000 本）を売り上げると、粗収益は 1,070,000 円となる（表 1）。
3. 生薬としての根に加え苗及び切り花を販売することで、所得は 322 千円、1 時間当たりの所得は 712 円となった（表 1）。
4. シャクヤクの年間労働時間は 773 時間となり、繁忙期は 5 月の摘花時期及び 10 月から 12 月の定植・出荷・調製時期である（図 1）。

[成果の活用面・留意点]

1. シャクヤクの年間の月別作業時間や、収益および経費が明らかになり、新たに導入を検討する際に参考にできる。本モデルは導入 5 年目以降の経営収支であり、導入 4 年目までは、契約先により種苗費が 0～240,000 円/10a 程度必要になる。
2. シャクヤクの導入を検討する場合は、販売先を確保し、導入品種や出荷形態・栽培方法について打ち合わせを行うことが重要である。

[具体的データ]

表1 経営収支

経営モデルでは、シャクヤク導入後5年目以降の植木類70a（アキ、オウクンテン、ハギ、ヒラドツジ等）、シャクヤク40a（1～4年目各10a）が作付けされている1年間の経営内容を示している。

項目	合計	シャクヤク	コンテナ植木、露地植木	摘要		
粗収益	販売量(kg)		2,500	27,500	6,000	
	販売単価		300	250	150	
	販売額	8,525,000	750,000	6,875,000	900,000	
	副産物収入	120,000	苗	120,000		1000株/120円
	副産物収入	200,000	切花	200,000		2000本/100円
助成金						
合計	8,845,000	1,070,000	7,775,000			
経営費	種苗費	0	0	0		
	肥料費	586,000	136,000	450,000		
	農薬費	212,000	35,000	177,000		
	光熱動力費	385,000	30,000	355,000		
	諸材料費	1,430,000	10,000	1,420,000		
	雇用労賃	1,783,760	281,600	1,502,160		
	その他	440,000	57,000	383,000		
	減価償却費	1,013,827	161,146	852,681		
	修繕費	218,187	36,658	181,529		
	合計	6,068,774	747,404	5,321,370		
農業所得	2,776,226	322,596	2,453,630			
所得率	31	30	32			
家族労働1時間当たり所得	1388	712	1,586			
総労働時間	4,027	773	3,254			
家族労働時間	2,000	453	1,547			
雇用労働時間	2,027	320	1,707			

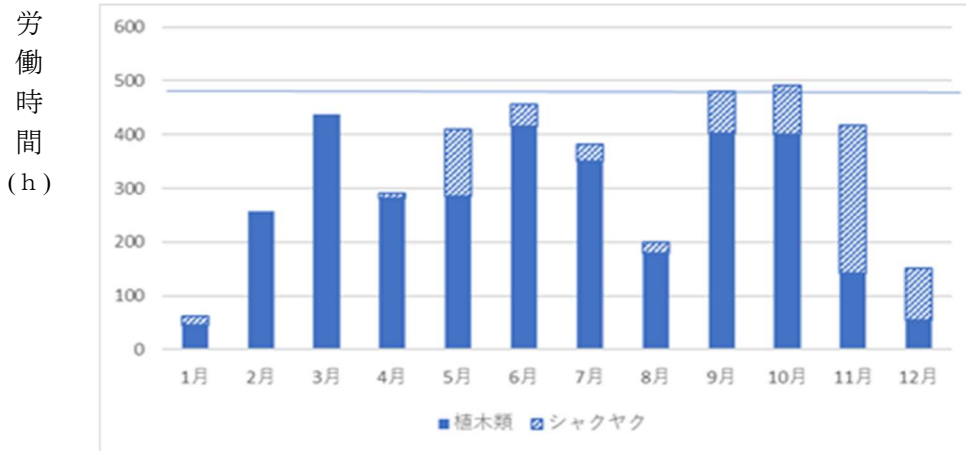


図1 植木とシャクヤクの月別年間労働時間

(小林 泰子)

[その他]

研究課題名：薬用シャクヤクを導入した場合の植木類との複合生産体系モデル
 予算区分：委託プロジェクト「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発」
 研究期間：2016～2020年度
 研究担当者：小林泰子 内山達也 三井友宏